

モードは語る

中野 香織

米国のトランプ大統領の日ごろのスーツスタイルには特徴がある。立っているときにボタンを留めず、前を開けたまま着る着用方法である。

スーツの世界には「ルール」がある。立つときにはボタンの一番下を残して留め、座るときにはボタンを外すこともそのひとつ。しかるに、トランプ大統領は、前を開けたまま立って公式写真に映ることが圧倒的に多い。2018年7月に英国のエリザベス女王を訪問した時さえも前を開けたまま立って女王と公式写真に映り、ひんしゅくを買った。

ところが、来日し天皇、皇后両陛

米大統領夫妻の装い

両陛下に見せた最大の敬意



トランプ米大統領夫妻との会見に臨む天皇、皇后両陛下
(5月27日、皇居・宮殿)

下と会見したトランプ大統領は、なんとスーツのボタンを留めて立ち、公式写真におさまったのである！

これまでの姿を見慣れた目には、やや驚きだった。この場に対して大統領なりの最大限の敬意を払った振る舞いと見えて、感動を覚えた。

一方のメラニア夫人はといえば、ハリケーン見舞いにハイヒールを履いたり、難民キャンプの子どもたちを見舞うためメキシコ国境へ向かったときにも「私はほんとうに関心がないわ。あなたは？」と背中に大書されたジャケットを着たりして物議を醸すこともあるファッションistaである。しかし両陛下との会見には、白地に着物柄を思わせる花柄が流れるキャロリーナ・ヘレラのドレスと

赤い靴を着用し、トランプ大統領の赤ネクタイも加わり、日本に対する最高の敬意を表していた。

夫妻の装いにヒヤヒヤすることもあった目には、そのマイナスがあるからこそ、効果は絶大だった。一瞬の表層の装いに、それまでの歴史を重ねることで、場の感慨がひときわ深くなる。晴れやかに格調高く本領を発揮した両陛下の歴史の重みは言うまでもない。

さて余韻もさめやらぬ数日後、英国を再訪したトランプ大統領は、スーツを着るあらゆる場面でボタンを留めて立ち、米ワシントン・ポスト紙に「英国的正確さをかすかに吸収した」とやゆされた。いや、日本で敬意を表現する術を吸収したのが先だと思いたい。(服飾史家)